

2008年度帰国子女入学試験「実技試験」「小論文」等の採点基準

学科・専攻	実技試験(芸術学科は小論文)	面接		
	狙い・意図、採点のポイント	狙い・意図、採点のポイント	小論文 利用	実技 試験 作品 利用
日本画	与えられたモチーフに対する発想力と表現(構成、描写、色彩感覚)を求めた。	実技試験の制作意図と本学志望理由の小論文を参考に面接を行い日本語の理解力を判断した。	○	○
油画	手鏡を持つ座像というモチーフだが、椅子に腰掛けている姿、鏡を持つ手、鏡と向き合うまなざし、肌色の表現等、人物画の魅力とともに良く鍛えられた技術を持っているか、構築する力を持っているかを判断したい。またこのポーズの主題となりえる鏡と向かい合う頭部の表現が、空間的にどうとらえたかを見たい。色彩的にはモノトーンに使いモチーフとなったが、そのなかで質感や光のひよ間、モノクロームの階調のとらえ方等、絵画的な興味を導き出す力があるかも見たい。	制作意欲があり、表現することに真摯に向き合っているか。本学の油画専攻を選んだ理由が明確かどうか。入学以降のビジョンを持っているかなどを統合的に見て採点している。	○	○
版画	①モチーフとして、手に小枝をもって自由に描いてもらう。 ②手と小枝を描写するデッサンの技術力と構成力や背景の表現を試す。 ③さらに自分のイメージ、想像力を使って、モチーフを自由に変容させる能力を見る。	・小論文の内容と実技試験の関連性を問う。 ・実技試験のイメージ内容を問うことで、言語的なイメージ力とデッサンによる表現力の一致や相違などを採点の基準にする。 ・日本語の質疑応答によって今後の作品批評や指導の内容が理解できるかを判断する。	○	○
グラフィックデザイン	出題のねらいは、デザイナーとしてビジュアルコミュニケーションの効果を造りだすのに必要な想像力を求めている。鉛筆デッサンでは、創作の原点ともなる観察力、そこから生まれる発見やひらめきなどを描く描写力を、色彩構成では造形化する発想力と構成力を問う。	・入学志望理由が明確であるか。 ・授業への取り組みの意欲があるか。	○	○
プロダクトデザイン	モチーフ(懐中電灯)に自由にデザインしたハンドルを加え、鉛筆デッサンする課題を出題しました。出題のねらいは、モチーフの形や構造を正確に描けるか、色や質感が表現できるか、独創的で理にかなったデザインができるか、その表現力があるかを見ることである。それらの完成度が採点のポイントになっている。	面接では、しっかりと自分の考えを伝えられるか、学習目標は明確かが採点のポイントになっている。	○	—
環境デザイン	本学一般入試と同レベルのデッサン力があるか。形、空間を把握し、平面上に表現する能力があるか。	一般入試では著しく不利になるような日本語能力のハンディキャップ、または日本の入試制度から離れていたことによるハンディキャップがあるか。あるいは海外で教育を受けていたことのメリットが能力に大きく影響し、それが本学科で学ぶことによってさらに成長する可能性があるか。デッサン以外のデザイン力をポートフォリオによって評価。	—	—
情報芸術コース	イメージ(写真)を読み取り、言語(言葉)と結びつけて、どのように独創的な表現が結ばれるか。イメージや言語の意味を取るためには、それまでの経験が育ててきた想像力が必要であるが、それを他者に伝えるためには、互いに理解できる視覚的な言語へ置き換えた表現が必要とされる。作者の想像した世界や、情景や物語が媒体にどのように提示されたかを問う。	・留学生として学ぼうとしている内容 ・本学科を選択した理由 ・一般常識 ・実技の応用力	○	○

全学科共通小論文

環境のない世界はない。ローカルであると同時に国際的である。日本という国……環境をいま選んで美術を学ぶ、そのとき環境は、国外を体験しているものにしかりみえないみえかたをするだろう。平たい社会的な感覚で……エコロジカルに、環境をとらえるか、それとも視点がまったくちがうところで、広がりを見つめるか。日本に「帰る」は、日本に「行く」でもある。新鮮な環境のとらえかた、そして美術の位置が書かれているとすばらしい。